

間にして、代宗の廣徳元年（七六三年）吐蕃が唐に入寇して、一時長安を陥れたる後、大曆元年（七六六年）頃よりの事と見るべく、天寶の末以來の形勢には非ず。

偕て此の如く北庭・安西・四鎮の地方よりは、建中二年回鶻を経て使を唐に遣すに至りしが、舊唐書回鶻傳及び同書吐蕃傳に、貞元六年吐蕃が北庭都護府を陥れたることを敘ぶるや

初北庭・安西、既假道於廻紇、以朝奏、因附庸焉

と記せり、されば少くとも郭昕等の使を遣すに至りたる建中二年（七八一年）以後は、回鶻の勢力は安西北庭の地方に及び、此等の地方は回鶻に對して附庸の關係に在りしものなること疑ふ可らず。

第五章 多邏斯 ^{〔一七〕} Tangridā bulmiš küüg bilgä yaran
(登里囉沒蜜施俱錄毗伽可汗) (忠貞可汗)

阿 啜 ^{qutur bilgä} (汨咄祿毗伽可汗) (奉誠可汗)

骨咄祿 ^{Tangridā üüg bulmiš alp qutur niur bilgä yaran} (登里囉羽錄沒蜜施合汨咄祿胡祿毗伽可汗) (懷信可汗)

俱錄毗伽 ^{Ai tangridā qut bulmiš küüg bilgä yaran} (愛登里囉汨德沒〔蜜〕施俱錄毗伽可汗) の時代

貞元五年（七八九年）頓莫賀天親可汗死するや、其の子多邏斯（忠貞可汗）位を嗣ぎしが、翌貞元六年（七九〇年）に至りて殺され、子阿啜（奉誠可汗）之に繼げり、此の際舊唐書廻紇傳には

是歲（貞元六年）四月忠貞可汗爲其弟所殺、而篡立、時大將頡干伽斯擊吐蕃未回、其次相率國人、縱殺篡者、而立忠貞之子、爲可汗、年方十六七